

Lesson 03 「弥生時代の農耕社会」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

【弥生文化の成立】

- ①東アジア情勢 ～ 中国に強力な「統一王朝」が成立（紀元前3世紀）
 - 統一王朝 …〔1 〃 〕帝国の成立
 - 朝鮮半島 …〔2 〃 〕など4郡が設置される
- ②弥生文化の成立（紀元前4世紀ころ）
 - ・〔3 〃 = 稲作 〕の伝来
 - ・金属器や〔4 〃 〕の使用
 - はじめ九州北部を中心に普及し、西日本一帯に拡大
- ③東アジアとの交流
 - ・伝播ルート a.〔5 〃 〕ルート
 - b.〔6 〃 〕ルート
 - c.〔7 〃 〕ルート
 - 朝鮮半島・中国大陸地域との類似点
 - ～ 支石墓、環濠集落、石庖丁、貯蔵穴
 - 渡来系人骨の確認 → 東アジア（朝鮮半島・中国大陸地域）からの集団移住を示す

【水稻農業の発達】

- ①水稻農業の伝播（地域拡大）
 - 弥生前期 → 西日本一帯 ～ 稲作に適した気候条件（一部は東北地方北部まで）
 - 弥生中期 → 東日本一帯 ～ 計画的な生産により生活が著しく安定
- ②水稻農業の初期技術
 - 水田 ～ 低湿地での小規模な〔8 〃 〕（弥生前期）
 - 灌漑・排水路の整備 ～ 弥生初期にはすでに発達
 - 木製農具 ～ 鋤（くわ） 鋤（すき） ※土壌を掘り起こすための道具
 - 田下駄（たげた） 大足（おおあし） ※湿地での歩行のための道具
 - 種苗 ～〔9 〃 〕と〔10 〃 〕の2種類
 - 収穫 ～〔11 〃 〕を使用し、〔12 〃 〕をおこなう
 - 脱穀 ～ 木臼・〔13 〃 〕を使って脱穀する
 - 〔14 〃 〕の普及（弥生後期以降）～ 鉄鎌・鉄製鋤先・鉄製鋤先
 - 開田が進み、規模が大きくなり灌漑設備をもつ〔15 〃 〕が拡大
 - 水稻農業の普及
 - ～ 東日本での農業の定着 ～ 例：静岡県〔16 〃 遺跡 〕（弥生後期）
 - But, 採集による植物性食料、漁労や狩猟による動物性食料への依存度もまだ高い

【例題】

佐賀県唐津市の〔A 〃 〕遺跡からは、縄文晩期の土器とともに「水田跡」が見つかり、大陸から水稻耕作が伝わってきたことが明らかになった。弥生時代前期の稲作は、低湿地で地下水位の高い〔B 〃 〕でおこなわれていたが、時代がくぐると灌漑・排水設備の整備が進み、〔C 〃 〕の開発が盛んになった。

【弥生時代の生活と習俗】

- ムラ ～ 竪穴住居で生活 …〔17 〃 〕～ 周囲を濠で囲む「防御目的」
 - ・5～6軒が基礎単位（20～30軒の大集落も存在）
 - ・〔18 〃 〕、貯蔵穴 → 収穫物を共同管理
 - ・青銅器祭祀 → 農耕生産の安定や集団の繁栄を願う
- 墓制 ～ 集落近くの共同墓地に埋葬
 - ・土坑墓や木棺墓、さらに〔19 〃 〕・箱式石棺墓・支石墓（九州北部）
 - ・後期以降 → 「屈葬」にかわって〔20 〃 〕が普及
 - ・〔21 〃 〕（西日本）、〔22 〃 〕・再葬墓（畿内～東日本）
- 道具～生活を支える道具の多様化
 - ・弥生土器（壺・甕・鉢・高坏など多種多用）、木製品・木工具
 - ・機織 …〔23 〃 〕… 糸をつむぐ
 - ・大陸系の磨製石斧 ～ 木の伐採や加工の道具
 - ・〔24 〃 〕の普及（弥生後期以降）→ 石器の消滅
 - ・青銅器・ガラス製品

【階級社会の形成】

- ①首長（リーダー）の登場
 - 「共同作業」を指揮する（農作業・水利）
 - 「祭祀」を主宰する
 - 「他集団との交易や抗争」で主導的役割を果たす → 政治的権限の発生・強化
- ②地域集団間の対立、抗争、統合
 - ～ 抗争に勝利した地域集団が他を支配 → 「ムラ」の結合 → 「小国」が形成される
- ③階級格差・身分の発生 ～ 「小国の王」
 - ・副葬品の多い墓や墳丘規模の大きな墓の被葬者 …「権力の大きさを物語る墓」
- 福岡県〔25 〃 遺跡 〕（弥生中期）→ 甕棺墓（巨石下甕棺墓）、副葬品
- 岡山県〔26 〃 遺跡 〕（弥生後期）→ 墳丘墓（大型墳丘墓）、副葬品

【階級社会の形成】

- 福岡県〔27 〃 遺跡 〕（縄文晩期）では、農具・水田跡・集落跡が発見される
- 青森県〔28 〃 遺跡 〕（弥生中期）では、水田遺構が良好な状態で発見される
- 佐賀県〔29 〃 遺跡 〕（弥生中期）では、巨大環濠集落跡が確認される
- 島根県〔30 〃 遺跡 〕（弥生中期）は、大量の青銅器祭器が発掘される